

県民の皆さまへ

(1) 麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、空気感染、飛沫感染、接触感染により、ヒトからヒトに感染が伝播します。その感染力は非常に強いと言われており、免疫を持っていないヒトが感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

感染すると約10～12日の潜伏期間の後、38℃前後の発熱が2～4日続き、咳、鼻水といった風邪のような症状が出ます。その後、少し体温が下がり、再び高熱（多くは39℃以上）が出るとともに、発疹が出現します。発疹出現後3～4日間で解熱し症状は軽快、合併症のない限り7～10日後には症状が回復します。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律「感染症法」の五類（全数届出）感染症に位置づけられています。

(2) 麻しんの症状が出たら電話をしてから医療機関を受診しましょう。

麻しんの症状は、まず38℃前後の発熱、咳、鼻水、結膜充血がみられ、その後下降した熱が再び高熱となり、発疹がでます。

医療機関を受診の際には、事前に連絡を入れ、マスク着用のうえ受診してください。

また、公共交通機関の利用は控えてください。

(3) 麻しんと診断されたらすぐ連絡しましょう。

医療機関等で麻しんと診断された場合は、学校や幼稚園、保育所、職場等にすみやかに連絡し、医療機関の指示のとおり自宅で療養してください。

(4) 定期予防接種（MRワクチン等）を受けましょう。

第1期（1歳の間）、第2期（小学校就学前の1年）の2回接種が必要です。

(5) 麻しんの免疫を持っているか知りましょう。

麻しんにかかったことがない方や麻しんワクチン接種が1回だけの方（30歳代半ば～50歳代前半）、接種をしていない方（50歳代前半～）は、十分な免疫を獲得していない可能性があるため注意が必要です。